

〔様式 1〕

事務事業評価表

1～11までは、担当課による評価

記入年月日	平成15年3月25日			
平成15年度	事業コード	11320	電話	042-756-8410
担当部課名	保健福祉部	陽光園		第二陽光園
事務事業名	第二陽光園			

1 総合計画における位置づけ

政策名	第1章	安心して生活できる福祉社会を作ります	事業開始年度
基本施策名	第3節	障害者の自立支援と社会参加	63以前年度
施策名	第2施策	療育体制の整備と保育・教育の充実	

2 実施根拠及び関連法令等

児童福祉法、同施行令、同施行規則、児童福祉施設最低基準 相模原市立療育センター条例、同施行規則
--

3 事務の区分

自治事務

4 経費の区分

その他の経費

5 事務事業の分類

県費補助事業

6 受益者負担

なし

7 事業概要

(1)事業の目的...何をどのように(どのような状態に)したいのか	(2)対象(誰、何)
当園は、児童福祉法第43条の3に基づく肢体不自由児通園施設で、身体機能に障害のある児童、発達遅滞によって運動機能に遅れのある児童を対象に機能訓練や日常生活の援助を行うことによって、児童の全面的な発達を図ることを目的とする。また、親子の療育場面を通じて家庭と密接な連携を持った総合的な療育支援及び居住する地域の中でより良い環境を整えるための保護者支援の充実を図るとともに、医療、教育等関係機関との連携を深める。	措置児（市内在住の学齢前の肢体不自由児）及びその保護者、家族
	対象数 措置児21人
(3)平成14年度事業の内容...市が実際に行った事業の内容	
1. 医療・機能訓練 整形外科診察、理学療法、作業療法、言語療法、保健指導、発達検査、摂食指導、日常生活用具・補装具の作成 2. 療育活動 クラス療育、個別療育、グループ療育、交流保育（集団・個別）、ムーブメント療法 3. 保護者支援 講演会（年5回）、全体懇談会（年2回）、機能訓練に関する懇談会（年2回）、個別面接（年3回）、家庭訪問 4. 職員研修 重度・重複障害児療育指導員事業（年4回） 総事業費 4,974千円 ・報酬 2,916千円 ・報償費 712千円 ・需用費 1,178千円 ・使用料 1千円 ・備品購入費 167千円	
(4)個別計画の概要	概要
計画名	
計画年次	年度～年度

8 評価指標...事業の目的達成度を計るための指標

15,16年度は目標値

	指標名	指標式	指標設定の意図	指標の推移（年度）				
				12	13	14	15	16
成果指標								
活動指標								

9 事業費等の年度別状況

〔金額単位：千円〕

		平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
		決算	決算	決算	予算	予算（見込み）
事業費	決算（予算）額	4,964	4,941	4,974	4,982	4,982
	人員・時間数	10人+非常勤	10人+非常勤	10人+非常勤	10人+非常勤	10人+非常勤
	人件費	86,828	86,761	86,950	86,992	86,992
	その他経費					
	合計	91,792	91,702	91,924	91,974	91,974
	特定財源	4,964	4,941	4,974	4,982	4,982
	対象数	18	22	21	22	22
	対象の単位あたり経費	5,099.6	4,168.3	4,377.3	4,180.6	4,180.6

10 個別評価

(1)達成度 評価 A ▼	A : 達成している	チェック項目	・成果指標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	B : 一部達成していない		・活動指標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	C : 達成していない		・事業目標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
		説明	指標・目標を設定することには、馴染みにくい事業である。
(2)必要性 評価 A ▼	A : 適応している	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・市民や社会のニーズにかなっている
	B : 一部適応していない		<input checked="" type="checkbox"/> ・状況の変化(対象や内容)に対応している
	C : 適応していない		<input type="checkbox"/> ・当初設定した事業目的が達成されていない
		説明	<input checked="" type="checkbox"/> ・国、県、民間、市民との役割分担から見て、市が事業を行う必要がある 重度・重複障害の児童が増加し、多様な支援が求められているため、保育士による療育、療法士による機能訓練、福祉指導員による保護者支援を3本柱として、それぞれのチーム・アプローチにより、児童の発達支援を図っている。
(3)有効性 評価 A ▼	A : 有効である	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・上位の施策、計画目的達成のために有効である
	B : 一部有効でない		<input checked="" type="checkbox"/> ・期待された成果が得られている
	C : 有効ではない		
		説明	障害児の全面的な発達を図るため、個々の障害の状況に応じた機能訓練や療育活動等を行っており、当該事業は有効である。
(4)効率性 評価 A ▼	A : 優れている	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・予算や人員に見合った効果が得られている
	B : 一部改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他市と比べてコストや効率性が優れている
	C : 改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他の類似事例と比べてコストや効率性が優れている
		説明	<input checked="" type="checkbox"/> ・同一対象者に対して同種のサービスが重複していない 専門的かつ個別的対応が求められる障害児療育を行うための経費としては、必要最低限のスタッフ(専門職)と指導員への謝礼、研修費、消耗品費、備品購入費等の事務経費だけであり、効率性は高いと言える。
(5)公平性 評価 A ▼	A : 公平である	チェック項目	<input type="checkbox"/> ・対象者と非対象者との不公平・不均衡は、妥当な範囲である
	B : 一部公平でない		<input type="checkbox"/> ・受益者の費用負担は適正である
	C : 公平でない		<input type="checkbox"/> ・対象者の設定は適切である(年齢や所得等を考慮している)
		説明	児童福祉法に定められた施設の運営であり、不公平・不均衡という観点における評価は馴染まない。
成果向上の余地		事業費削減のために取り得る手段と削減額	
<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	説明： 保護者のニーズを取り入れ、療育活動に活かしていくとともに、チーム・アプローチをよりまとまりのあるものにしていくこと、研修の充実等により職員の資質のより一層の向上を図ることによって、更に成果向上の余地がある。	手段	当該事業は、第二陽光園のみに係る経常的な経費が主であるため、削減は困難である。
		削減額	0 千円

11 総合評価

評価	A ▼	他自治体の類似事業との比較
		他自治体の類似事業と比べても、事業内容の充実度や費用対効果の度合い等において遜色ないレベルであると言える。
今後の進め方		
<input type="checkbox"/>	継続	総合評価に関する説明
<input checked="" type="checkbox"/>	見直し	障害児の全面的な発達を図るため、様々な職種のスタッフがチーム・アプローチにより、個々の障害の状況に応じた発達支援を行っている。 また、日々の療育を進める上で保護者とその家族を支援することが子どもの発達を促す大切な基盤づくりとなるため、様々な機会を設けて保護者支援を行っている。 以上から、当該事業は今後も継続していく必要があるが、陽光園全体について、陽光園の運営のあり方検討会の中で検討を進めていく。
<input type="checkbox"/>	廃止	
<input type="checkbox"/>	完了・廃止済	

12 二次評価コメント

「陽光園のあり方検討会」での検討結果を踏まえて見直しを進めること
